

大阪平野淀川支流の船橋川での淡水カメ目視調査

佐野純也¹・谷口真理^{1,2}・岡本慶^{1,3}

¹ 573-0163 大阪府枚方市長尾元町5-17-18-302 日本ウミガメ協議会

² 654-0049 神戸市須磨区若宮町1-3-5 神戸市立須磨海浜水族園

³ 113-8657 東京都文京区弥生1-1-1 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻

Visual observation of fresh water turtles in the Funabashi River ,Osaka

By Junya SANO¹, Mari TANIGUCHI^{1,2} and Kei OKAMOTO^{1,3}

¹ Sea Turtle association of Japan, 5-17-18-302, Nagaomotomachi, Hirakata, Osaka, 573-0163, Japan

² Kobe-Suma Aquarium, 1-3-5, Wakamiya, Suma, Kobe, 654-0049, Japan

³ Department of Ecosystem Studies, Tokyo University, 1-1-1 Yayoi, Bunkyo, Tokyo, 113-0032, Japan

大阪平野北東部を流れる淀川支流の船橋川にて淡水カメの目視調査を行った。調査は、2011年5月～2012年4月までに月に7～21回、1日1回の頻度で午前中、大阪府枚方市長尾元町付近(北緯34度49分, 東経135度42分)の約1km間で行った(図1)。カメを発見したら、日時、気温、発見場所、種、個体数、発見時の状況を記録した。

合計163回の目視調査により、目視されたカメは、ミシシippアカミガメ(以下、アカミガメ)61匹(51%)、クサガメ30匹(25%)、ニホンイシガメ(以下、イシガメ)28匹(24%)の3種で、アカミガメが最も多く発見された(図2)。1回あたりの発見匹数は、アカミガメが0.4匹、クサガメ及びイシガメはそれぞれ0.2匹で、アカミガメが最も高い頻度で発見された。発見されたカメの内、それぞれアカミガメは



図1. 淡水カメの目視調査を行った大阪平野北東部を流れる淀川支流の船橋川



図2. 目視されたニホンイシガメ(左)とミシシippアカミガメ(右)

表1. 船橋川において目視調査により発見された月ごとの発見匹数及び1回あたりの発見匹数

	調査回数 (回)	平均気温 (°C)	アカミガメ (匹)	クサガメ (匹)	イシガメ (匹)	合計	アカミガメ (匹/回)	クサガメ (匹/回)	イシガメ (匹/回)	合計
2011年5月	12	19.7	9	6	4	19	0.8	0.5	0.3	1.6
6月	22	23.9	9	9	5	23	0.4	0.4	0.2	1.0
7月	13	28.2	3	6	2	11	0.2	0.5	0.2	0.8
8月	21	29.0	14	3	2	19	0.7	0.1	0.1	0.9
9月	19	25.7	7	3	4	14	0.4	0.2	0.2	0.7
10月	18	20.9	5	3	9	17	0.3	0.2	0.5	0.9
11月	17	14.4	1	0	1	2	0.1	0.0	0.1	0.1
12月	12	7.7	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
2012年1月	7	4.9	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
2月	7	4.0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
3月	7	8.4	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
4月	8	16.0	13	0	1	14	1.6	0.0	0.1	1.8
合計	134	16.9	48(46%)	30(29%)	27(26%)	105	0.4	0.2	0.2	0.8

57%, クサガメは73%, イシガメは39%が遊泳中のところを発見されており, 残りは甲羅干しのために上陸中のところを発見された。アカミガメ及びクサガメは遊泳中のところを発見されることが多いのに対して, イシガメは甲羅干し中のところを発見されることが多かった。

次に月ごとの発見匹数及び1回あたりの発見匹数, 平均気温を表1に示した。1回あたりの発見匹数はどの種も4~10月は相対的に多く, 気温が15°C以下になる11月になると激減し, 12~3月には発見されなかった。1回あたりの発見匹数が最も多かった月は, アカミガメは4月, クサガメは5, 7月, イシガメは10月で種によって多く発見される月は異なった。

谷口・亀崎(2010)によれば, 本調査対象川と同様の船橋川で行ったカメ専用の捕獲網を用いた捕獲調査では, 船橋川の種組成はアカミガメ48%, クサガメ25%, イシガメ27%ということが明らかとなっている。今回の目視調査の結果は, それと概ね同様の結果となった。目視調査を行えば, その場所の種組成は推定できると考えられた。

謝辞

本調査に全面的にご協力いただいた日本ウミガメ協議会のスタッフの皆様に感謝申し上げます。

引用文献

谷口真理・亀崎直樹. 2010. 大阪平野淀川支流の船橋川に生息するカメ類. 爬虫両棲類学会報 2010(2) :105-110.